

食の、安全と、安心のために。



当会は、「日本と世界の食と農業へ貢献」を目指し活動している非営利の任意団体です。
食料安定供給に貢献する作物保護の役割と農薬の安全性について正確な情報を提供しています。
農薬をご使用になる方々へ、農薬の正しい情報を提供し、適正使用を推進しています。

クロップライフジャパン
(旧 JCPA 農薬工業会)



ごあいさつ

2014年に当会は「JCPA VISION 2025」を策定し、当会の持続的な発展と日本農業への貢献に向けた活動を開始しました。その後、食料、農業を取り巻く環境は大きく変化し、食料安全保障、持続可能な発展、地球環境問題への対応等様々な課題がでてきています。このような状況の下、2022年から、将来を担う若手メンバーの意見も聴きながらビジョン改訂の検討を進め、食料・農業をめぐる情勢の変化、会員の事業活動の拡大を踏まえ、将来ビジョンをリニューアルいたしました。新ビジョンは、政府の食料・農業・農村基本法改正案にある食料安全保障の確保等の方針も踏まえ、食料・農業、環境、消費者を対象とした目標として「将来のありたい姿」、目標を実現するための「活動指針」、「具体的な活動内容」から構成されています。あわせてグローバルな潮流にそって、当会の名称も変更いたしました。これからの活動にあたっては、新ビジョンに沿って、多様性を尊重し、全会員がベクトルを合わせ、日本と世界の食と農業へ貢献してまいります。



クロープライフジャパン会長

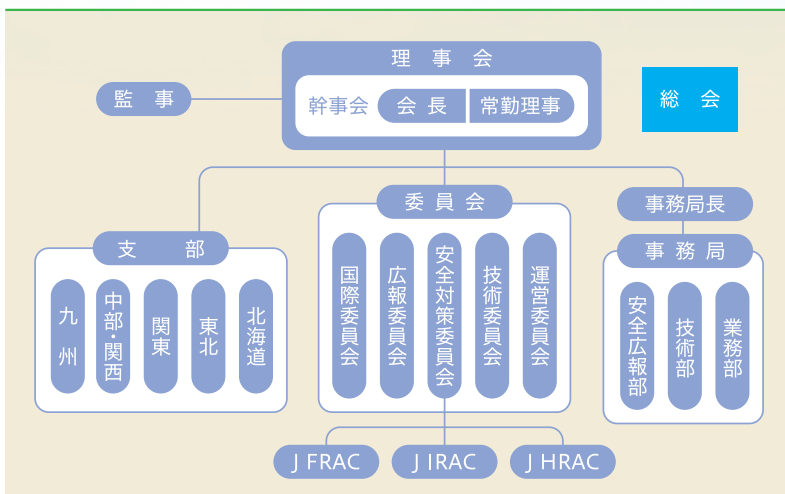
小澤 敏

歴史

- | | |
|-------|---|
| 1946年 | 農薬の検査・統制を目的に
農薬協会が設立される |
| 1953年 | 農薬協会が農薬工業会と
(社)日本植物防疫協会に分割される |
| 2022年 | 名称に英名を追加(Japan Crop
Protection Association、略称JCPA) |
| 2024年 | 5月現在、正会員(農薬製造企業)34社、賛
助会員(商社・副資材製造企業等)46社で構成

名称をクロップライフジャパン
(英名:CropLife JAPAN)に変更 |

組織



国際連携活動

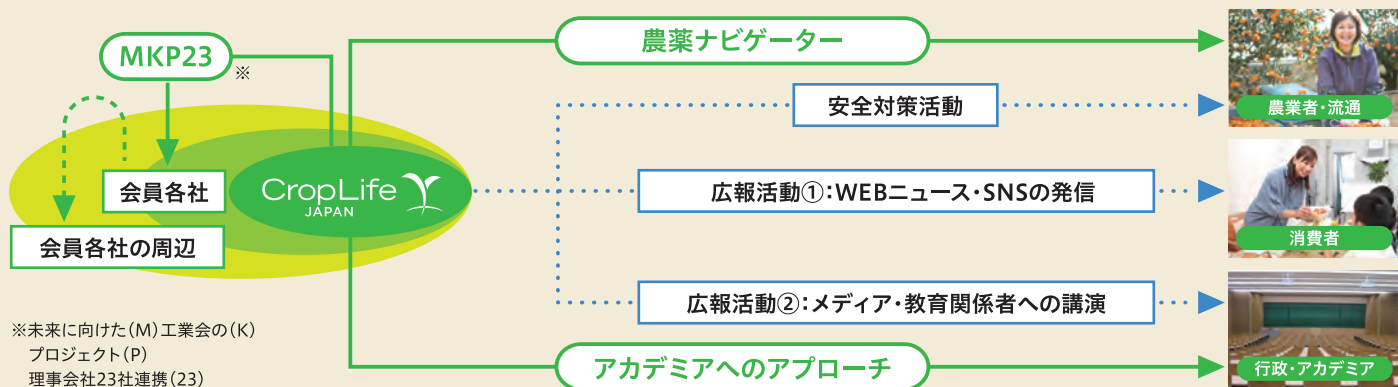
- 農業輸出入に関する法令順守事項等、会員への周知と順守の徹底。
- 世界動向を把握し、アジア諸国における重要案件に関する課題の解決を図る。

技術関連活動

- 農業に係る技術的諸課題に関する情報を収集し、所管官庁と意見交換を行い、健全な農業規制の実現を図る。

発信情報のポイント

- ①食料生産の重要性 ②農薬の役割 ③科学的データによる安全性の裏付け
④農薬の適正使用 ⑤環境への配慮 ⑥技術のイノベーション ⑦薬剤抵抗性管理



※未来に向けた(M)工業会の(K)
プロジェクト(P)
理事会社23社連携(23)

広報活動

消費者・教育関係者・メディアに対し、農薬についての正しい知識の普及啓発

ホームページの充実

消費者向けコンテンツ、農薬情報局（一般・教職員・専門向け）などを見やすく提供。



メディアへの活動

食生活ジャーナリストや報道記者を対象に情報交換会を開催。

教育関係者への活動

食育担当の家庭科教職員向けに、セミナーを開催。

消費者への活動

■ホームページでの動画発信

・動画ギャラリー

動画を見てクイズに答えよう、役割編、安全性編、ミニドラマを掲載。

・「Crop Tech Innovation」動画

過去から将来に向けてのグローバルな技術イノベーション動画を掲載。

■新聞等報道への対応

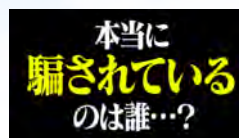
誤解に基づく記事にはホームページに当会の見解を掲載。

■WEBニュースやSNSの発信

・コラボ動画(YouTubeチャンネル「QuizKnock」)
【ドッキリ】常識に囚われてる東大卒たちの思い込みを覆すためちゃくちゃになった【衝撃のラスト】

・コラボ記事(Webメディア「QuizKnock」)
愛すべき「世間に実力が知られていないもの」をマジで語ろう【円卓会議】

・Gakkenの小学生向け学習漫画に協力



安全対策活動

農業関係者の方々に対し、農薬の正しい情報を提供し、農薬の適正使用を目指した正しい理解の推進

農薬適正使用啓発等の資料配布

■「農薬の正しい使い方」DVDとリーフレット

DVD内容はホームページ「農薬をご使用になる方へ」に掲載。

リーフレットは植物防疫関係者・団体に無償配布。

2022年度12万部、2023年度19万部を提供。



農薬に関する正しい理解の増進活動

■専門講師の派遣

農薬の安全使用指導のための研修会に専門の講師を派遣、2022年度164件、2023年度211件の実績。



■農薬でんわ相談

農薬使用者からの相談に対応、2022年度は243件、2023年度は231件の実績。

講師派遣・農薬でんわ相談

公益社団法人 緑の安全推進協会
TEL 03-5209-2512

■農薬についてよく尋ねられる質問

内容はホームページ「教えて! 農薬Q&A」に掲載。

■薬剤抵抗性管理活動

RACコードを利用したローテーション防除についての周知活動を実施。



■「なるほど! なっとく! 農薬のABC」動画

農薬とは何? 農薬がどのように私たちの食生活に貢献しているかを解説した動画を掲載。



NEW VISION



将来のありたい姿＝目標

1. 日本と世界の食料安全保障、持続可能な農業に貢献します
2. 環境にやさしいイノベーションを推進します
3. 安全の先にある安心な食生活を楽しめる社会を目指します

活動指針＝目標を実現する方法

- (1) 日本の農業生産性向上と農産物の輸出拡大、世界の農産物需要に対応した作物保護技術を提供します
- (2) 環境を守るための技術革新とカーボンニュートラルに取り組みます
- (3) 社会の信頼を確保するため、適正な農薬使用の推進と科学的な情報発信を行います
- (4) 上記活動の核となるイノベーションを創出する人材の育成に努めます

食の未来のために。

2014年「JCPA VISION 2025」策定から10年が経ち、食料や農業をめぐる状況・事業環境の変化を踏まえてこれまでの取組みを検証し、2024年5月にNEW VISIONを公表しました。新たなビジョンに沿ってSDGsと連携し、将来のありたい姿の実現に向けて取り組みます。



ビジョン活動とSDGsとの関連付け

ビジョン活動では、作物保護の役割について正しい理解を促進・共有しています。

作物保護の役割は

	[飢餓をゼロに] 農作物の収量・品質の確保で貢献する。
	[すべての人に健康と福祉を] カビ毒リスクの軽減で健康に寄与する。
	[働きがいも経済成長も] 効率化・安定化により農業を成長産業に。
	[陸の豊かさを守ろう] 農耕地の拡大を抑えることで緑を守る。

当会活動の役割は

	[産業と技術革新の基盤をつくろう] 新技術や製品の創出で基盤づくりに繋げる。
	[つくる責任 つかう責任] 農薬の適正使用を通してサポートする。
	[パートナーシップで目標を達成しよう] 消費者への啓発を通じて達成を目指す。

